

の理由から異教徒に対して不寛容であり戦争を繰り返してきた歴史がある国の国民ならまだしも、私たち日本人は自然物や自然現象など無限に近い神がいるという八百万神^{やおよずのかみ}を信仰してきた元々寛容な国民であるはずなのです。

災害が起これば「次は自分にも災いが及ぶかもしれない」と困っている人に手を差し伸べて、そして誰かが過ちを犯したなら、「いつか自分だって何か過ちを犯してしまうかもしれない」と、過ちを犯した者とそれを許す者との間に「お互い様」みたいな合意を自然と醸成することができ、そういう国民だったはずではありませんか。

いや、しかし、やはり私は前言を撤回しなくてはなりません。なぜなら私は、考えてみれば今の時代の常識からするとかなりズレた感覚を持った人間だからです。とりわけ私は、最近世の中に蔓延している〇〇ハラ（ハラスメント）というのが苦手で、知らず知ら

ずのうちに様々な〇〇ハラをやらかしてしまっているからです。

ハラスメントとは、性別・年齢・人種・国籍・身体的特徴・職業などについて相手に不快感を与え、尊厳を傷つけることを言うのですが、たとえば飲みに行ったりしたなら、隣に座った人に対して私は普通に「何歳？」とか「どこの国から来たの？」とか「仕事何してんの？」とか聞いてしまいますし、「飲みなよ飲みなよ」と酒を注いでしまったりしているのです。それをもしも相手が不快に思ったのなら私は完全にアウトな訳で、そんな中で私は何とかギリギリ生かされている危うい存在なのです。

そんなハラスメント男のくせに、やはり私は何か事件が起きた後に手のひらを返してパッシングするような人を好きになることができません。もしも私がタトゥーの二人と酒も飲みに行ったら、「ミュージックステーションの

スタジオで何か面白くないことでもあったのかい？ まあ飲みなよ」と優しい言葉のひとつもかけることができると思うのですが、ネット上でパッシングを繰り返すような人とは間違っても酒場でご一緒したくないと思ってしまいう不寛容な人間なのです。ああ、私も知らず知らずのうちに、日本人が本来持つ寛容な心でやつをどこかの酒場の片隅にでも忘れてきてしまったのでしょうか？



Akira Saito

昭和40年生まれ。神奈川県出身。平成15年税理士登録（東京税理士会支部）。東京税理士会支部所長・日本税理士会経営部委員・医療法人研水会監事。ブログは「波乗り税理士・波に乗るか？」<http://blog.livedoor.jp/saiki555/>

【近況】朝の出勤前にサーフィンに行くのが気持ち良すぎてやめられません。しかし私の鼻の副鼻腔は海水が入りやすい構造らしく、その後お客さんと会っている時に突然鼻から海水が出てきたりして、実にカッコ悪いのです。